

森林やまがた

No. 60

2002 3月



炭焼き体験：白鷹町立東中学校



第53回全国植樹祭

感じていますか 森があるしあわせ

目次

炭焼き体験……………	1	現地ルポ	
山形県森林整備長期計画…………	2	未来に向かって動き始めた「木の子の森」…	8
「雪のゆめりあ夜奏会」開催される…	3	普及情報	
一年間の活動を通して学んだこと…	4	県産材利用木造住宅の建築促進…	9
巨樹・巨木ってすごい!…………	5	山形県の名水・湧水……………	10
木と暮らしを考える		山形県の古木・名木……………	10
フォーラム開催される…………	6	芹洋子グリーンセンチュリーコンサート…	11
平成13年度山形県木炭品評会…	7	ナメコ新品種「出羽N-1号」の紹介…	11
県産木炭の消費拡大への取り組み…	7	月刊誌のご案内……………	11
		木材市況……………	12

山形県森林整備長期計画

「循環型社会を担い、豊かな暮らしを広げる森林づくり」

人間の生活に果たす森林の役割が改めて見直され、これまでの木材生産や災害防止だけでなく、生物多様性の保全や地球温暖化防止など自然環境・生活環境に対する役割についても大きな期待が持たれております。

このような役割を持つ森林を国民全体で支えていこうという議論が広く展開されており、森林づくり施策の新たな展開が必要となっております。

現在、県では全国植樹祭を契機に県民総参加の森林づくり運動を展開しており、各地でボランティアによる森林づくり活動が見られるなど、森林に対する県民各層の理解が広まり、その活動は活発になっております。

山形県森林整備長期計画は、これらの理解と行動を森林・林業施策に結びつけ、今後十年間の具体的な整備目標やこれを実現するために必要な方策を明らかにし、森林の整備を計画的かつ総合的に実行するために策定しました。

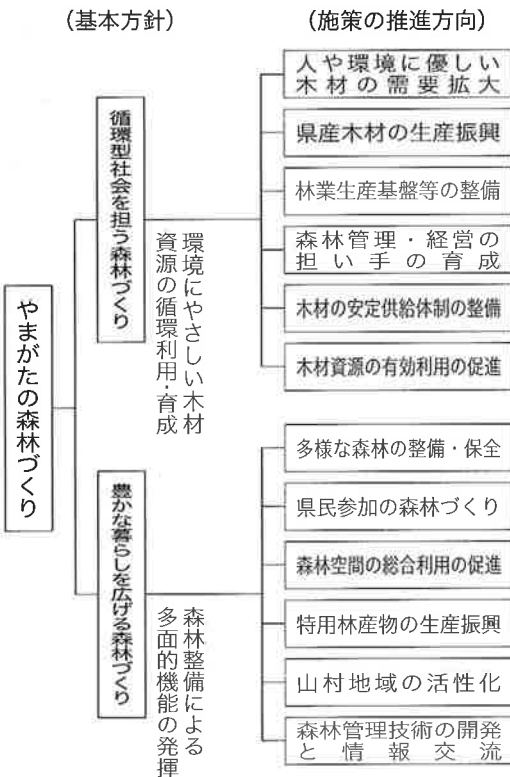
計画策定にあたっては、各界有識者等で構成する検討会を設置し、三回の本庁検討会と各総合支庁毎に二回の地域検討会を開催し、幅広く御意見をいただいたところであります。

今後は、本計画に基づき、森林の整備、林業・木材産業の振興が効果的かつ着実に図られるよう進めてまいります。

〔県森林課〕

○基本方向等

2つの基本方向と12の施策の推進方向に基づき、森林整備を促進



○主な目標

「循環型社会を担う森林づくり」
環境にやさしい木材資源の循環利用・育成

整備目標	単位	現況(H11)	目標(H17)	目標(H22)
山形県の県産材需要量	千m ³	277	316	357
人工林の間伐面積	ha	1,650	3,200	3,500
木材の生産量	千m ³	387	440	500
林内路網密度(公道を含む)	m/ha	10.5	11.3	12.0
林業就業者数	人	3,558	3,000	3,000

「豊かな暮らしを広げる森林づくり」
森林整備による多面的機能の発揮

整備目標	単位	現況(H11)	目標(H17)	目標(H22)
保安林面積	千ha	234	240	242
森林オーナー区画数(人数)	区画(人)	61	220	270
森林ボランティア団体会員数	人	648	1,030	1,230
栽培きこ類の生産量	t	8,500	9,600	10,000
林野副産物の生産量	t	1,450	2,300	2,600

「みんなが森林の応援団」 第五十三回全国植樹祭記念 「雪のゆめりあ夜奏会」開催される



D. F. O(ディフォー)コンサート

第五十三回全国植樹祭の開催を契機に、森づくりの行動の輪を大きく力強く育てるため、「みんなが森林の応援団」をスローガンとした県民総参加の森林づくり運動を繰り広げています。このキャンペーンの今年度の最後を飾る「雪のゆめりあ夜奏会」が、二月十六日(土)新庄駅最上広域交流センターゆめりあで開催されました。

“音楽をとおして森を体感する”このコンサートは、県内各地で活躍しているアマチュア演奏団体と国内外で人気急上昇中の女性五人によるサイレント・バイオリンのユニットD・F・O(ディフォー)が出演し、雪化粧する新庄市の玄関口、ゆめりあ・花と緑の交流広場は多くの観客の熱気で包まれました。

第一部では、置賜地区からシンガーソングライターの上村容子さん、村山地区からは山形マンドリンクラブ、地元最上地区からは新庄吹奏楽団サクセスホールンカルテットが、素晴らしい演奏を披露してくれました。第二部は、サイレント・バイオリン、セッションドラムなど



熱気に包まれた会場

の電子楽器を駆使し、テレビのイメージソングになったオリジナル曲、クラシックや馴染み深いオールド曲を現代風にアレンジした計十曲がD・F・Oにより演奏されました。七百人を超える聴衆は、デジタルサウンドで表現された音楽に魅了されました。コンサートに併せ、最上町村の協力のもと山菜・きのこ、里の味などの特売会「森の恵み市」を実施しました。また地元ボランティアによるきのこ鍋の

振る舞い、甘酒の振る舞いコーナーには、約八百人が集まり、行列もできる大盛況となりました。

会場には、一年間の森林づくりキャンペーンの成果をまとめたパネルを展示しました。様々な森づくり活動に多くの方々から質問が寄せられ、県民総参加の森林づくり運動を通して、交流が広がり、森を慈しみ、自然を愛する心が着実に広がりをを見せていることを実感しました。

〔全国植樹祭推進事務局〕



大賑わいの“振舞いコーナー”



昔の道具を使っでの除草

六月には、昔の道具を使っでの除草作業、夏休み中には、いなくなつた服を持ちよつてかかし作りなども行いました。毎年ユニークなかかしがあり、今年是小泉総理大臣を形どつた物もありました。

九月には、いよいよ稲刈りです。黄金色に輝く田んぼが、秋の恵を感じさせてくれました。

最新のコンバインを使った稲刈りと比べると、昔の人の苦労がよくわかりました。昔の人は、米作りに手間とひまをかけていたのだなあと思いました。十月の脱穀は、昔ながらの千歯こきや回転式脱穀機、現在の脱穀機を使って作業をしました。

十一月の収穫感謝祭では、おじいちゃん、おばあちゃんを招

また、今年は、初めてきのこの植菌を行いました。シイタケとナメコの菌をたくさん打ちました。食べられるのは、まだまだ先のことですが、今から楽しみにしています。

このように自然と親しみ、育てていく活動を通して、いつまでも自然豊かな環境を守っていききたいと思ひます。

ぼく達の長瀨小学校は、村山盆地の中央部に位置し、国道十三号線、山形空港、そして山形新幹線がとまるさくらんぼ東根駅が近くにあるという、交通に便利な場所に位置します。また豊かな水を生かした果物畑や田園が広がる自然豊かな地区です。

長瀨小学校緑の少年団の主な活動として、米作りがあります。まず、五月に五・六年生全員で田植えをします。苗をまっすぐに植えるのは難しく見えたが、指導者の方に教えていただいたおかげで、何とかうまく植えることができました。

一人一人が稲刈りカマで刈り、稲ぐいにかける作業をします。



千歯こきを使っでの脱穀

おもちを、格別においしく感じました。

米づくりの他にも、朝日少年自然の家での交流研修会や県の育樹祭への参加など、自然と親しみ、緑を保護する活動も体験しました。

活動の少年報告

一年間の活動を
通して学んだこと

東根市立長瀨小学校
六年 阿部 智大



巨樹・巨木ってすごい!
 森林インストラクター
 真室川町 山田 和寿

現在わたしは、森林インストラクターであり、町役場企画課の職員でもあります。森林インストラクターになったのも、元はといえば仕事の関わりで講習を受けたことに始まります。

「森林やまがた」を読んでいるみなさんならば、巨樹・巨木の話は当然のように知っていることと思いますが、最上郡や真室川町は巨木の宝庫として、注目の的になっています。

平成十二年四月林野庁は、全国から「森の巨人たち百選」を選び、その中に真室川町から「滝の沢の一本杉」と「女甕の大カツラ」が指定を



女甕の大カツラ

受けました。町では、この二本の巨木を保護するため、町や森林管理署等の行政機関・地元の関係者・自然に造詣の深い賛同者をメンバーにした「真室川町森の巨人たち保全協議会」を創りました。協議会の事務局として、わたし自身も加わっているため、何度も巨木に会いにいきました。その度に「巨木ってすごい」と感じたことが多くありました。

その巨大な様は当然ですが、荘厳な雰囲気、人間の介入を許さないような威圧感、周囲の樹木を守るような慈愛、四季の移ろいに合わせた美しさ、様々な印象



滝の沢の一本杉

を受けることができました。とりわけ千年以上も生き続ける生命力には、何があっても生長を続けようとする執念・風雪に対する忍耐が感じられ、その「すごさ」を実感しました。

二本の巨木を育てた、雄大で厳しい自然環境から私達は多くの事柄を学ぶことができるのではないのでしょうか。時には開発や整備を行うことも必要ですが、人間も自然の摂理の中で生きています。このような謙虚な姿勢を持つことも重要な意味を持っているはず。森林インスト

ラクターとしての活動をとおりて多くの人の心の輪を広げていければと考えています。

「滝の沢の一本杉」「女甕の大カツラ」は一見の価値があります。平成十四年には、巨木をテーマにした事業を展開する予定にしていますので、興味のある方は、左記まで問い合わせ下さい。

連絡先
 真室川町森の巨人たち
 保全協議会 事務局
 電話 ○二三三三―六二―二二一一
 ○二三三三―六二―二二一一
 FAX ○二三三三―六二―二二七三



フォーラム開催状況

第五十三回全国植樹祭記念行事 木と暮らしを考えるフォーラム開催される

第五十三回全国植樹祭記念行事

「木と暮らしを考えるフォーラム」

が、最上村山、置賜、庄内の三流

域林業活性化センターの主催に

より三月二十三日(土)新庄市民

プラザで、林材業関係者、建築業

関係者、一般県民等三百五十人の

参加を得て盛大に開催されました。

暮らしに活かそうやまがたの

スギをテーマとして、森巖氏、

田家邦明氏、酒井天美氏による

能を重視する方向に転換されて

いる。木を使うということは、

住み易いとか健康に良いという

ような個人レベルから公益機能、

地球温暖化問題など公共的な目

的の実現に資するという意味で、

新しい次元での政策的な価値を

持ってきたのではないかと思う。

◆酒井天美氏(山形県森林審議会委員)

木の家の中というのは、その

木が同じように生きている感じ

がして圧迫感がない。木の良さ

はメンテナンスが効くというこ

とももある。

木で造られた民具や農具を見

ても日本の文化は木だという気

がする。日本人がこれから大事

にしなければならぬ一番目が

木の文化ではないかと思う。

◆佐々木文彦氏(建築家)

近くの山と住まいを結びとい

うテーマで、住宅はただ出来た

ものに住むということではなく、

建主を山に案内することから関
わってもらっている。

木をふんだんに使う以上、多

少の割れや狂いに入った欠点の

部分もでてくるが、木と大らか

に付き合っ行って行けないと家造り

はできないことを納得してもら

ってスターとしている。

◆安部政昭氏(木づくりの家やま

がたネットワーク専務理事)

六十年のスギに比べて八十年

のスギはコストも下がり、使い

易く、ニーズに答えられるもの

が造れる。また、国際的な木材

商品のグレードから比べるとス

ギは合せにくい点があり、使い

方を考えなければならぬ。

国産材を有効に量的に回転さ

せるために、山のリスクを製材

工場だけにやらないで、山のほう

でも受け持つようなスクリブナ

ー方式の原木流通を提案する。

〔最上村山流域林業活性化センター〕

定され、経済性重視から公益機

◆田家邦明氏(山形県専門委員)

森林・林業基本法が新たに制

定され、経済性重視から公益機

能を重視する方向に転換されて

いる。木を使うということは、

住み易いとか健康に良いという

ような個人レベルから公益機能、

地球温暖化問題など公共的な目

的の実現に資するという意味で、

新しい次元での政策的な価値を

持ってきたのではないかと思う。

◆森 巖氏(明海大学教授)

このままでは、先祖が造って

きた人工林が報われないばかり

か、県民生活や県土の安全にと

っても大変なことになる。山を

活かさなければならぬ。

◆酒井天美氏(山形県森林審議会委員)

木の家の中というのは、その

木が同じように生きている感じ

がして圧迫感がない。木の良さ

はメンテナンスが効くというこ

とももある。

木で造られた民具や農具を見

ても日本の文化は木だという気

能を重視する方向に転換されて

いる。木を使うということは、

住み易いとか健康に良いという

ような個人レベルから公益機能、

地球温暖化問題など公共的な目

的の実現に資するという意味で、

新しい次元での政策的な価値を

持ってきたのではないかと思う。

◆酒井天美氏(山形県森林審議会委員)

木の家の中というのは、その

木が同じように生きている感じ

がして圧迫感がない。木の良さ

はメンテナンスが効くというこ

とももある。

木で造られた民具や農具を見

ても日本の文化は木だという気

がする。日本人がこれから大事

にしなければならぬ一番目が

木の文化ではないかと思う。

◆佐々木文彦氏(建築家)

近くの山と住まいを結びとい

うテーマで、住宅はただ出来た

ものに住むということではなく、

建主を山に案内することから関

わってもらっている。

木をふんだんに使う以上、多

少の割れや狂いに入った欠点の

部分もでてくるが、木と大らか

に付き合っ行って行けないと家造り

はできないことを納得してもら

ってスターとしている。

◆安部政昭氏(木づくりの家やま

がたネットワーク専務理事)

六十年のスギに比べて八十年

のスギはコストも下がり、使い

易く、ニーズに答えられるもの

が造れる。また、国際的な木材

商品のグレードから比べるとス

ギは合せにくい点があり、使い

方を考えなければならぬ。

国産材を有効に量的に回転さ

せるために、山のリスクを製材

工場だけにやらないで、山のほう

でも受け持つようなスクリブナ

ー方式の原木流通を提案する。

〔最上村山流域林業活性化センター〕



県産木炭の振興をめざして
 寸法形状等を厳正に
 審査した結果、入賞
 は次のとおり決まり
 練度、硬度、色沢、



審査会風景

二月十九日、飯豊町民総合センター「あーす」で山形県木炭文化協議会(会長 井上俊雄)主催の平成十三年度山形県木炭品評会が開催されました。

県内各地から約六十点の応募があり、白炭部門、黒炭部門、創作部門の三つに分かれて品質、技術、独創性等を競いました。

審査規定に基づき、木炭の精

ました。おめでとうございます。

◎山形県知事賞：白炭の部
 樋口 勝典(飯豊町)

◎飯豊町長賞：黒炭の部
 川合 義春(白鷹町)

◎山形県森林組合連合会長賞
 渡部 良範(飯豊町)

◎西置賜ふるさと森林組合長賞
 舟山 清一(飯豊町)

◎西置賜林業振興協議会長賞
 上田 四郎(飯豊町)

◎山形県木炭文化協議会長賞
 舟山 清一(飯豊町)

◎奨励賞(創作部門・佳作)
 近野 清一(米沢市)

山田 静(西川町)

なお、入賞した作品は三月四日～八日まで山形市内の山形銀行本店ロビーに展示されます。



県産木炭の消費拡大への取り組み
 山形県・山形県木炭文化協議会
 深めてもらうため、
 昨年十月二十二日から二十六日まで、山形銀行本店ロビーに

木炭は、燃料としての利用の他に、最近では、湿度調節や水質浄化などの環境を改善する資材、有機農業のための土壌改良資材など、地球環境に優しい資材として注目されています。

山形県は、白炭の生産量が全国四位であるなど、全国有数の木炭生産地となっています。

県と山形県木炭文化協議会では、県産木炭等の消費拡大を図るため、県内外消費地において、木炭の展示・販売会などに取り組みんでいます。

①やまがたの木炭展
 広く県民の方に木炭の種類や機能、利用方法などへの理解を

②その他展示・販売会
 昨年八月の山形駅自由通路での物産市をはじめ、十月には、山形県林業まつり、林道マラソンin県民の森、ゆとり都プラザ(東京)など、県内外各地において開催し、消費者にPRを行っています。

この展示会については、三月四日から八日まで、同場所において、山形県木炭品評会の優秀作品を中心に再度開催します。

〔県森林課〕

〔県森林課〕

〔県森林課〕

〔県森林課〕

〔県森林課〕

〔県森林課〕

〔県森林課〕

〔県森林課〕

〔県森林課〕

〔県森林課〕

〔県森林課〕

〔県森林課〕

〔県森林課〕

現地ルポ

森に向かっ動き始めた「木の子の森」 〜 鮭川村エコパークの取り組みから〜

鮭川村のエコパークは、大久保沢の緑豊かな森林資源と景観を生かした、最上エコポリス構想に基づく「人と自然の共生」を基調に整備した「滞在型の自然公園」です。

最上地域の憩いの場として、地域内外の交流の場として、そして自然を通じた子供たちへの教育の場として、今年年間を通じて賑わっています。

特に、最上地域としては初めて、独自のインストラクターによる自然体験プログラムを展開して注目を集めています。

主催プログラムとしては、地域ボランティアによるツル細工教室、冬期間の「スノーシュー」で雑木林ハイキング、受託プロ

グラムとしては、幼稚園、子供会を対象にした、クラフト教室、リース作りなど年間を通した内容となっています。

また平成十二年より、樹齢五十年以上のコナラ等から構成される雑木林「木の子の森」を活用して普及補助事業「学びの森」も展開しております。



「雑木林で秘密基地づくり」(プランコで森遊び)



「雑木林ハイキング」(スノーシューで森の探検)

今年度も、七月に「森林教室」

雑木林での秘密基地づくり、九月に「森林セミナー」ピザパン作りと自然体験、二月に「森林教室」雪中キャンプと本格的な体験イベントに取り組んでいます。

小さな村の小さな森、そこにはたくさんの可能性を秘めています。

将来は、地域と密接な関係にあった里山の「雑木林」を活用して、地域の子供達を対象に、

「里山倶楽部(仮称)」を設立し、自然体験型の環境プログラムの実践や、冬期間の活動の新たな展開も模索しています。

エコパークの雑木林での過ごし方はいろいろです。普段自然に囲まれた人も、自然を遠くに感じる人も、まずは是非一度お出かけください。

〔最上総合支庁森林整備課〕

エコパーク体験プログラム

(平成14年度予定)

- 平成14年6月…森林教室
「樹木医と新緑の森の探検」
- 9月…森林教室
「山形県育樹祭：木に親しむ教室」
- 10月…森林教室
「親子木工クラフト・パンづくり」
- 平成15年2月…森林教室
「初春の里山ハイキング・雪中キャンプ体験」

平成14年度もイベント満載。
お問い合わせは鮭川村エコパーク(黒坂)(寺嶋)まで
☎0233-55-4455(直通)

県産材の主要な用途は住宅建築資材（約八十五％）ですが、

近年、安定した品質と供給量を持つ外材あるいは他県産集成材が多用されてきております。

そこで、県産材の需要拡大のため、住宅建築における県産材の利用率を高めていく「木材の地産地消」に取り組む必要があります。

(1) 住宅着工と木材業の推移

県内の新設住宅着工戸数は、平成八年の一万三千二七八戸をピークに減少し、平成十年からは九千戸台で横ばいとなっております。また、木造率は、近年七十五〜七十％で漸減し、在来工法木造率も六十五〜六十％で同様の推移を示しています。また、県産素材の生産量は、住宅着工に比例して減少（四年間で約十萬㎡）しており、製材品出荷量も年々減少しております。

(2) 木造住宅の建築工法と地域

経済に対する波及効果

木造住宅の建築には多くの業種が携わっていますが、県内工務店について、県内企業・県外大手別、建築工法別に労務・資材の調達先を調査したところ次のような違いが認められました。

① 県内企業の在来工法木造
木材等資材から労務まですべ

「木材の地産地消」に向けて
県産材利用木造住宅の建築促進

普及情報

② 県外大手の在来工法木造
木材・新建材等は県外調達、

総工事に対する県内需要は七十五％程度。

③ 県外大手のプレハブ・二×四
県外工場の製品調達が多く、
総工事に対する県内需要は三十〜四十％程度。労務も一部県外。

このことから、県内企業（中小工務店）による在来工法木造

住宅の建築を促進することは、

林業・木材産業をはじめ、地場産業の振興と雇用の拡大につながる事がわかりました。

(3) 住宅における木材使用量

県内の工務店が建築した在来工法木造住宅を抽出し（十四件）
木材の使用量を調べたところ、

次の結果となりました。

① 延べ床面積1㎡当たり木材
使用量「〇・二二㎡、県産材

四十九％、外材五十一％」

② 内、構造材「〇・一六㎡、県
産材三十九％、外材六十一％」

③ 内、下地材「〇・〇四㎡、
県産材八十一％、外材十九％」

県産材七十四％、外材二十六％」

(4) 「木材の地産地消」にむけて

県産材の需要拡大のためには、部材の七十三％を占める構造材において、県産材の使用割合を高めて行く必要があります。

例えば、構造材での県産材の使用割合を六十％に高めると、一戸当たり約六㎡の増、在来工法木造住宅五千八百戸で約三萬五千㎡の需要量増となり、平成十二年県産材製品出荷量一三八千㎡の約二十五％に相当します。

県民を対象としたアンケート調査では、木造住宅を希望する人が大多数を占めています。そうした需要に対し、林家・木材生産者から設計、建築業者までのネットワークを強化し、「顔の見える家づくり」を進めていくことが「木材の地産地消」につながるものと考えます。
〔県森林課 林業専門技術員〕



山形県の名水・湧水③⑩

小見川湧水

東根市羽入

案内図



この湧水は、日本の名水百選の一つで、山形空港の西方羽入地区にあり、乱川扇状地の端にあたり地下水が豊富で、以前は少し地面を掘れば自噴し、「どんこ水」「どっこん水」と呼ばれ、今でも深井戸を掘れば自噴し、これらの水が集まって小見川となる。

また、魚が巢を作ることでも有名は「イバラトミヨ」の生息地としても有名で、豊富な湧水を利用して魚の養殖が盛んに行われている。

(山形県森林協会)

山形県の名木・古木③⑥

土淵のユズ

松山町大字土淵字新田町

案内図



本樹は、古くから後藤貢氏の宅地に植栽されていたもので、約百年前火災にあい、切った根株から芽生えたものが現在のものであるという。根元周り一・六メートル、地上七十メートルの所で三本に分かれ、それぞれ幹周六十五メートル、五十三メートル、五十三メートルで、枝張りは一・五メートル、南北に約四・三メートルで樹高は七メートルである。

中国原産で暖地性の植物でありながら、戸外で生長し年々多量の実を結ぶことは珍しいことである。昭和二十七年四月一日山形県指定天然記念物に指定されている。

(山形県森林協会)

第53回全国植樹祭記念

芹 洋子

グリーンセンチュリーコンサート

第53回全国植樹祭を記念して
2002年グリーンセンチュリー
キャンペーン芹洋子コンサ
ートを開催します。

日時

平成十四年四月二十一日(日)
開場十四時 開演十四時三十分

会場

山形県民会館

入場料

無料(入場整理券が必要です)

内容

【第一部】
緑百年物語
講師 新井 満(芥川賞作家)

【第二部】

芹洋子グリーンセンチュリーコンサート

【併催】

グリーンフェア(地下展示室)
みどりのパネル展・きのこ・
山菜・木工品販売

お問い合わせ

第53回全国植樹祭山形県実行委員会
電話 〇三三―六二九―七七三四
FAX 〇三三―六二九―七七二一

ナメコ新種

「出羽N-1号」の紹介

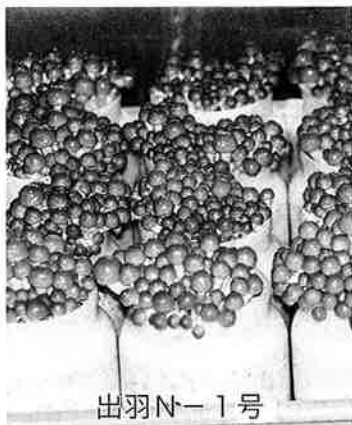
このたび、県森林研究研修センターにおいてナメコの新品種が開発され、「出羽N-1号」として品種登録になりました。

〈特徴〉

- ①肉厚で皮膜が切れにくい
- ②色は明るい黄橙色
- ③ビン栽培に適している

〈種菌購入のお問い合わせ〉

酒田市 (株)河村食用菌研究所
電話 〇三三―四一九二―三三三三
余目町 (株)河村式種菌研究所
電話 〇三三―四一四二―一一二二



出羽N-1号

月刊誌のご案内

「林業新知識」

B5判/24頁
年間購読料2,500円(税・送料込)

1953年の創刊以来、全国の林業関係者、森林所有者に読まれている林業関係で一番発行部数が多い月刊誌です。

誌面を象徴するのが「表紙の人」。農山村に暮らし働く人にスポットを当て、さまざまな話題や情報を、写真やイラストを盛り込みながらわかりやすくレポートします。読み続けることでちょっと得をする月刊誌です。



「GR現代林業」

A5判/80頁
年間購読料3,900円(税・送料込)

農山村で働く若い女性の表紙でおなじみの『GR現代林業』は、森林を生かす経営を中心に編集していますが、最近は育て上げた森林を生かすための木材利用と木造建築、一般の人々に森林への理解を深めてもらうために森林教育に力を入れています。

現地の最近の動きと関係者の展望を盛り込んだ『GR現代林業』は森林・林業のこれからを考える総合雑誌です。



購読の申込みは山形県森林協会か各地区の林業振興協議会へ

環境を守ろう

災害に強い県土を
良質な水の安定供給を
緑豊かな環境づくりを

森林を育てよう

山村の生活環境の整備を
森林の恵みの循環利用を

山形県森林土木建設業協会

山形市桜町2-35(林業会館内)
電話(023)632-3893 FAX(023)632-5454

あなたの食卓に、「きのこ」の彩りを!

きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。



きのこパワーで健康生活! “毎日食べよう山形きのこ”

山形県きのこ振興会

〒990-8570 山形市松波2-8-1 ☎023-630-2542



素材	樹材種		材長	品等	1m ³ 当り価格	前月比較	
	スギ小丸太	3.65~4.00m		込		11,700円	± 0
スギ中丸太	//		//		15,800円	-300	
スギ大丸太	//		//		19,300円	± 0	
材	米マツ中丸太	6.0m~		普通材	19,300円	200	
	米マツ大丸太	//		//	23,500円	300	
	北洋アカマツ中丸太	3.8~		//	17,600円	100	
製品	樹材種	厚	幅	長	品等	1m ³ 当り価格	前月比較
	スギ柱	10.5cm	10.5cm	3.00m	特等	59,900円	-100
	米マツ柱	10.5cm	10.5cm	4.00m	//	57,200円	± 0

木材市況
(二月一日現在)

印刷所
渡辺活版所
定価
一部二〇円

森林やまがた 3月号 平成14年3月1日発行 通巻第60号

編集 山形県森林協会 山形県

発行 山形県森林協会

〒990-0045 山形市桜町2-35 林業会館内

TEL 023-631-6566 023-622-8823

FAX 023-631-6573

「ゆとり都」 森林課ホームページ <http://www.pref.yamagata.jp/ns/shinrin/index.html>
第53回全国植樹祭ホームページ <http://www.shokujusai-yamagata.jp>